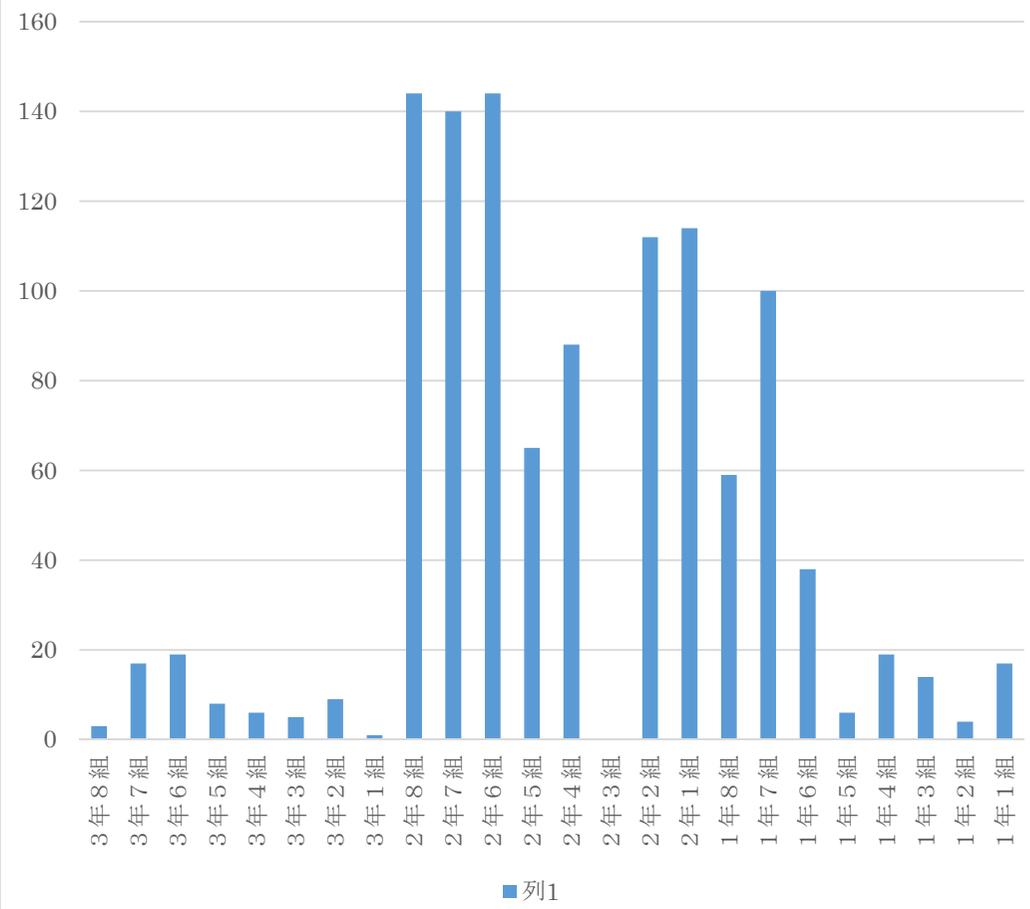


図書だより

平成二八年八月二八日発行

宇北高図書委員会 夏&初秋号

クラス別貸出冊数調べ(一学期)



- ★ 夏休みも終わり二学期が始まりました。
- ★ 皆さんは夏休みをどう過ごされましたか？
- ★ これからは勉強モードに切り替えて頑張りましょう。
- ★ 「二学期のクラス別貸出冊数」発表！

# 特別寄稿

関 奨人 先生

お薦めする本『日本人にとって美しさとは何か』

冒頭的一篇に、「日本人の美意識」と副題された「言葉のイメージ」は、「うちの孫なんかメールでいろいろ友達と話しているとき、最後に笑い顔とか何かのいろんな絵文字をつけます」という話から始められている。怒りにしてもいろいろな怒りがあつて、「うん怒っているよ」とか「ちよつと怒っている」とか、何種類もあるというのだ。実は、この絵文字の中に日本人の美意識の秘密が隠されていると著者は言う。

西洋文化圏では、マグリット(一八九八〜一九六七年)以前、絵と文字は全くの別世界といわれているが、東洋文化にはそれは通用しないと著者は言う。日本文化には、仮名文字がある。「漢字仮名交じり文」を使いこなすようになった日本人はその美意識において活字を意図的に取り入れなかつたとも付け加えている。文字で絵を描く伝統は、鎌倉時代の金字宝塔曼荼羅(建物)を文字で描いた文字(絵)に遡る。

他にも蕪村、北斎、さらに擬態語を図案化して取り込んだ現代の漫画まで、文字絵、絵文字の例は、日本の美術史、文字学のいたるところに潜んでいる。

日本は、古くは中国、新しくは西洋からの文物を無限に受け入れたかのように見えるが、その実巧みな取捨選択を行っていたこと。また、受容するにあたっても本質的な改変を加えていたことを著者は力説する。例えば、中国の直刀に「反り」を加えることにより日本化した。その原理は、日本建築の特徴の屋根の「反り」にまで貫徹し、宮大工独特の「撓み尺」は西洋のカーブとは根本的に違うという。

余白の美学が日本独特のものである。現に言葉や英語、フランス語に訳しにくいところが明らか。著者は、「日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかという事にその感性を働かせて来た」という。例えば、清少納言の「春は曙」、「秋は夕暮れ」。が結局は春夏秋冬の四部に分類されてかえってその特色が強まった事などを見よと著者は強く言う。

価値の多元化を標榜するポストモダンが常識化して半世紀、芸術の閉塞感が著しい。人間にとって美しさとは何か。問題の所在を示唆する貴重な一冊。

書名 『日本人にとって美しさとは何か』

著者・高階秀爾

発行・筑摩書房

# 寄稿

三年七組 (図書委員長) O・M

お薦めの本 『何者』

「あなたは一体何者ですか？」

この問いは、様々な場面で形を変えてやってきます。そのときあなたは何を述べますか。SNSは自己表現の一つで、『何者』ではまさに、主人公らのつぶやきを通じて彼らの考え方や関係性が描かれています。ただ忘れてはいけないのがSNSで表現されたものだけがその人のすべてではないということです。

SNS上では、見せたい自分だけを見せ続けたり、あるいは知ってほしくない自分の一面を隠しておくこともできます。以前会った時とは別人のような友人のプロフィール写真を見て、驚いたことはありませんか。急に活動的になった友人の投稿を見て、焦ったことはありませんか。

自分は特別で、誰とも違った「何者」かでありたいというのは、おかしな感情ではありません。『何者』の主人公もそう願っている、いつか変われると信じてきました。しかし当然のことながら、自分はただ自分なのであって、他の何にもなることはできないのです。私は自分は特別ななんかじゃないということに気づくのが嫌いでした。色んなことを悟るようになったあの頃も、自分だけはきつとプリキュアになれるという、謎の自信をなかなか捨て去ることはできませんでした(笑。)

決して悲嘆しているわけではありません。誰もが、才能に恵まれている訳ではないというだけの話です。諦めたフリをして夢を追い続けている人なんてたくさんいます。才能がないからといって、そう簡単に諦められるものではありません。だから、カッコ悪くても弱くても、そのままの自分で戦わなければいけないのです。それ以外に道はないからです。

カッコ悪い自分を認め、さらけ出して戦うことができないあなたも、周りに否定されようと嘲笑われようと弱いままの姿で必死にあがこうとしているあなたも、ぜひこの本を手にとって読んでみて下さい。この一冊は、きっとあなたの背中を押してくれるはずです。

書名 『何者』

著者・朝井リョウ

発行・新潮社

\* 「何者」 第一四八回直木三十五賞作。今年十月十五日に映画公開予定。

『ひよひよ』

3年 女子図書委員

読書には力があり、その力は私達の世界を広げてくれます。

時間が無ければ、まず、短編を。

高校生のうちに本とふれあってみてください。

## ★『図書委員のオススメ本』

### 2年女子図書委員

今回私が紹介するのは、初野晴著『退出ゲーム』です。

舞台は清水南高校。廃部寸前の吹奏楽部に所属する穂村千夏（チカ）が、同じく吹奏楽部の一年でチカの幼なじみの上条春大（ハルタ）と数々の難事件に挑んでゆく。青春系学園推理小説です。

この小説のみどころは、二人の周りで起こる様々な事件を次々と解決してゆくハルタの鋭い洞察力と推理力、そしてチカとハルタのちよつぱり複雑な恋愛模様です。

「わたくしは、こんな三角関係をぜったいに認めない。」（チカ）  
部活×推理×恋愛×友情という高校生たちの青春ストーリーを  
ぜひとも読んで楽しんでください。

# 募 集

!

## 図書館報（図書館だより）の原稿

表紙写真・詩・短歌・俳句・図書館の思い出  
などふるって応募してください。

- 写真・・・白黒、テーマは自由です。
- 詩・短歌・俳句・・・自由作品
- 図書館の思い出・・・⑤0字程度、テーマは自由です。

期限 月 日までに

※司書教諭の井澤先生か図書室の山本、またはクラスの  
図書委員に提出してください。

※一人につき何点以内という制限ありません。

(いくつでも結構です。)